

「子どもたちの未来のために」

2 6 0 6 3 0

～ある校長先生の学校だよりから

私は夏休みに、齋藤浩さんが2020年に書かれた「教師という接客業」という本を読みました。これは、保護者からの期待や要望に真摯に応えてきた学校が、もはや「サービス業化している」と指摘した本です。この中に出てくる校長先生は次のように書いています。【私たちは普通のサービス業ではなく、ちょっと変わったサービス業に就いています。普通のサービス業の場合は相手の望むものすべてを提供するわけですが、私たちは生徒が望んでも提供しない場合があります。反対に、彼らが望まなくても提供する場合があります。彼らが将来困らないかどうか、提供するか否かの基準です。顧客は十年後の彼ら。つまり、未来の彼らからの要望に基づいてやっているというわけです。】

学校は子どもたちの「今」だけでなく、「未来」を「見据えて教育」をする場です。私たち教師は、子どもが望むことをすべて与えるのではなく、時には本人が望まない経験や課題にもあえて挑戦させます。それは、社会に出たときに直面する理不尽さや困難に立ち向かえる力を育てるためです。子どもたちが将来、自分で考え、行動し、困難に立ち向かえるたくましさを身に付けることが私たちの目標です。

「子どもたちの未来のために」～ある校長の学校だよりから～

私は夏休みに、齋藤浩さんが2020年に書かれた「教師という接客業」という本を読みました。これは、保護者からの期待や要望に真摯に応えてきた学校が、もはや「サービス業化している」と指摘した本です。この中に出てくる校長先生は次のように書いています。【私たちは普通のサービス業ではなく、ちょっと変わったサービス業に就いています。普通のサービス業の場合は相手の望むものすべてを提供するわけですが、私たちは生徒が望んでも提供しない場合があります。反対に、彼らが望まなくても提供する場合があるのです。彼らが将来困らないかどうか、提供するか否かの基準です。顧客は十年後の彼ら。つまり、未来の彼らからの要望に基づいてやっているというわけです。】学校は子どもたちの「今」だけでなく、「未来」を「見据えて教育をする場です。私たち教師は、子どもが望むことをすべて与えるのではなく、時には本人が望まない経験や課題にもあえて挑戦させます。それは、社会に出たときに直面する理不尽さや困難に立ち向かえる力を育てるためです。子どもたちが将来、自分で考え、行動し、困難に立ち向かえるたくましさを身に付けることが私たちの目標です。保護者の皆様にも、お子さまが壁にぶつかった際には、すぐに解決してあげるのではなく、時には見守り、励まし、共に悩む姿勢を大切にしていきたいと思います。家庭と学校が手を取り合い、子どもたちの成長を支えることで、未来を切り開く力強い人間が育ちます。このことを理解していただいた上で、共に手を取り合い、子どもたちを育んでいきたいと思います。ご家庭でも未来を見据えたときに浮かぶ、「今、たいせつなこと」を考えてみてはいかがでしょうか。